

「全鍍連」 2018年 3月号 巻頭言

全鍍連 技術委員長 荒井 亮治

「次の100年に向けて」



今年の全鍍連賀詞交歓会は、参加者も多く全体的には仕事の明るい見通しを反映しているかのようでした。ご来賓の挨拶においてもようやくアベノミクスの効果が出始めたとの挨拶もあり、我々業界も動き出したとの認識でした。

大手企業も世界の大きな変革や国策に左右されながらも、ようやく方向が定まり動き出したのかなという実感でした。

特に世界的なIoT・AI・ロボット化に伴い、機械加工装置や自動車のEV化・自動運転等でとくに各種半導体素子や、関連部品の要求が一気に増え始め、過去にない大幅な要求数量が出てきています。

昨年は半導体製造企業の売り上げにおいて、四半世紀トップであったインテルを抜き、サムスン電子がトップになったようです。要因はフラッシュメモリーの販売量が前年16年の160%の伸びをし、さらに中国への大型投資計画も発表されています。

半導体製造装置では納期遅延が慢性的になり始めているとのこと。加工機メーカーの困り込み確保や、材料においても、一部入手困難なものも出始めており、計画通りに製品が入らず、ラインが空いてしまい効率が悪いという現象も出始めています。

当社は半導体関連及び装置関連で、多品種少量となっており、なかなか自動化しにくい製品が多くなり始めています。今年は創業100年の節目に当たり、次の100年に向けてスタートとなります。時代の流れに対応することが継続といわれますが、変化のスピードが加速度を帯びており、難しさを感じています。

変化の激しい時代こそ、同業者の集まりである組合の活動にこそ、多くの情報があるのではないかと思います。動き出した業界も我々の業界からすればまだ一部ではありますが、対象業種が多岐にわたっているのも事実であります。表面処理技術は多くの産業とかわりながら発展し、モノづくりには欠かせない重要な技術となっています。本年は全体的には明るくなり始めていますが、さらに強固な発展に向け組合活動に積極参画頂ければと思います。